

掛軸文化を次世代へと繋ぐ試み 都内4大学 29名の現役美術系大学生が「巻ける絵」に挑戦 重要文化財が建ち並ぶ、三溪園にて掛軸の作品展を開催

表粋会（代表：石塚利郎）は、公益財団法人 三溪園保勝会と協働し、都内の美術系大学生が描く絵画を、表粋会所属の表具師が掛軸に仕立て、展示する作品展「第3回 掛軸と絵画の未来展」（2022年8月13日～8月21日）を三溪園にて開催致します。

2018年、2020年に開催し、大きな反響のあった「掛軸と絵画の未来展」のコンセプトを継承し、より多くの皆様に掛軸の魅力に触れていただく機会になればとの思いで企画致しました。

■本作品展について

本作品展において、学生らは「掛軸にするための絵」というテーマで新作を制作し、それを伝統技法の継承を志す弊社所属の表具師が掛軸に仕立て、展示致します。学生と表具師が感性を競い合い、また融合する、かつてないかたちの作品展です。

意欲的な美学生たちによる〈掛軸のための新作絵画〉が揃う、これまでにない企画

本企画に応募する学生の大半は自作品を掛軸に仕立てた経験がありませんでした。普段制作している額絵とは違い、掛軸として巻くために必要な、薄く柔軟かつ強い絵具層という条件のもとで、「表装を施される」ことを意識しての表現に挑戦しました。日本画専攻の学生にとどまらず、現代美術専攻の学生からの出品など、多種多様かつ意欲的な新作が揃いました。

伝統技術を受け継ぐ表具師・経師が掛軸の未来のために

「手漉き和紙」「正麩糊」を使った伝統の表装技術を研鑽する「表粋会」。会員は40～50歳代が中心で、これからの業界を担う熱意あるメンバー。現在・未来のために何をすべきか、真剣に考えての企画です。

いま最も新しい絵画を現代の感性をもって表装するため、作家との打ち合わせの場を設け、作品への理解を深めて意匠を決定。床の間にとどまらず、現代の空間に展示することを意識した掛軸に仕上げます。

厳選された原料と職人の技によって作られた紙

本企画の参加学生が制作の際に使用した紙は、本企画協賛の「一般財団法人 世界紙文化遺産支援財団 紙守」様より、精良な紙を提供いただきました。伝統的な原料・製法で作られた紙を学生に使用していただくことで、軸画に適した紙の価値を再発見してもらうことを企図しました。

■関連企画について

三溪園との協働企画として開催する本展では、主会場の「鶴翔閣」のほかに、「三溪記念館」（三溪園内）でも、原三溪が支援した作家の作品や表具に着目した所蔵品の展示、掛軸のできるまでのパネル展、ワークショップなどの関連企画も予定しています。

■開催概要

展覧会名	[表粋会・三溪園 協働企画] 第3回 掛軸と絵画の未来展 ～ 美大生×表具師@三溪園 パトロネージュのかたち ～
会期	2022年8月13日(土)～8月21日(日) 9:00～16:00
会場	三溪園「鶴翔閣」(主会場)、「三溪記念館」 〒231-0824 横浜市中区本牧三之谷58-1
入場料	無料 ※別途、三溪園への入園料が必要となります。

■本件に関するお問い合わせ先

江戸表具研究会 表粋会 広報部：武笠(むかさ)

TEL : 090-7814-7089 (受付時間 平日10:00～17:00)

MAIL : amukasa10@gmail.com

■表粋会紹介

掛軸・屏風・襖などを製作する職人、表具師・経師による江戸表具の研究会です。平成8年に熱意ある若手を中心に発足し、現在39名が所属。表具の発展と継承者育成・技術向上を目指して、従来は師弟の間でのみ受け継がれてきた技法を、互いに教え合い研鑽しています。

業界団体主催の表装展や全国規模の技能士競技会などにおいても受賞・入賞をかさね、実力者を輩出しています。

このような活動が認められ、平成28年には人気漫画家・井上雄彦氏（代表作『スラムダンク』『バガボンド』等）により、伊勢神宮へ式年遷宮を機に奉納された墨絵作品『承』の、巻物の仕立て作業を担当させていただきました。

表粋会ホームページ <https://hyousuikai.org/>

■企画主旨

掛軸文化の危機

掛軸は日本の絵画・書跡文化の一つの形態として、数百年もの間続いてきました。近世以降は一般庶民のあいだにも広まり、昭和の時代の家庭では床の間に掛軸をかけるのが一般的となっていました。しかし現在では、住宅に和室が少なくなり、床の間もそれ以上に減少しています。気に入った絵や優れた書を複数所持して、季節ごとにつけて替えるといったこともほぼ無くなりました。すでに私邸で美術品を鑑賞し、個人が美術品を所有する文化そのものが衰退してしまったとも言えると思います。

表具の今

表具師は、掛軸をはじめとして、襖・屏風・額・巻子・画帳・手鑑などを製作します。紙に書かれたあらゆる絵画・書跡の表装を手掛け、作品の制作と鑑賞の両方を支えてきました。さらにこれらの物の修復も行って、現代に膨大な文化財を残す一翼を担ってきました。しかし時代の流れで、その仕事量は減少傾向にあります。また一方、手早く安価に掛軸を仕立てられる「化学糊」や「機械表装」という新工法が登場し（これは長期保存に向かないという重大な欠点があることが判っています）、一部の職人や顧客の間に少なからず浸透しているという現状もあります。このように古来の多様な技術や知識の継承が非常に難しくなった、この状況下に危機感を持った若手の表具師で結成されたのが『表粋会』です。

未来展を企画した意図

現在の掛軸の衰退は、表具師にも責任があると考えています。環境や絵画表現が変化しているのに対応せず、古典回帰を夢見ていたからです。しかも住環境の変化以前から、すでに日本画家達は軸絵を離れていました。掛軸から解放されて、屏風やパネルの固定された紙に描くことで、より自由な表現に進むことができたのだと思います。さて今はどうでしょうか。日本画において、何百年ものあいだ掛軸と共に培われた軸絵の技法も忘れられつつあるのではないかと考えてなりません。この双方を結びつけようというのが今回の企画の始まりです。絵を描く学生には、現代の感性をもって現代の掛軸画に取り組んでいただきたいと思っています。掛軸ならではの技法や画面構成などに挑戦し、長い間、絵師・画家が取り組んできた掛軸の形式や、表装されることに面白味や新たな可能性を感じていただき、ぜひ将来的にも掛軸を一つの表現の場として加えて欲しいと考えています。

美術とゆかりの深い三溪園での開催

今回の会場となるのは、明治～大正期の実業家で美術愛好家としても知られる原三溪が開園した日本庭園の三溪園で、本展は同園との協働企画として開催いたします。主会場となるのは、かつて原三溪が住まいとした鶴翔閣（横浜市指定有形文化財）。ここは横山大観や前田青邨など近代の日本画家たちが、名品揃いといわれた三溪の美術コレクションの鑑賞の機会を得、また滞在して作品の制作を行うなど、三溪からの支援を受けた場所でもありました。まさに本展の副題を「パトロネージュのかたち」とした、美学生応援の趣旨とも重なる会場であるといえます。

掛軸文化を未来に繋ぐ試み

私たち表粋会は今回の未来展に際し、時代に即した掛軸、現代に受け入れられる表装を求め、また広く一般に提案して、これからの数百年も残るような掛軸のあり方を模索していると考えています。美術界・表具業界はもとより、広く一般市民の皆様にも、掛軸という存在・可能性を考えていただく契機となるよう計画してまいります。

【 参考資料 】

■作品展詳細

展覧会名	[表粋会・三溪園 協働企画] 第3回 掛軸と絵画の未来展 ～ 美大生×表具師@三溪園 パトロネージュのかたち ～
会期	2022年8月13日(土)～8月21日(日) 開場時間／9：00 ～ 16:00
会場	三溪園「鶴翔閣」(主会場)、「三溪記念館」 〒231-0824 横浜市中区本牧三之谷58-1
出品点数	29点
絵画出品者の 所属大学	女子美術大学2名、多摩美術大学11名、東京藝術大学13名、東京造形大学3名 (50音順、出品者には学部生・院生・卒業生も含まれます)
主催・掛軸制作	江戸表具研究会 表粋会
共催	公益財団法人三溪園保勝会
後援	一般社団法人 東京表具経師内装文化協会
協賛	一般財団法人 世界紙文化遺産支援財団 紙守
協力	株式会社 マスミ東京

参加者(学生・院
生)

【女子美術大学】
池谷 貴子、根岸 慧理子

【多摩美術大学】
袴田 真子、ネルソン ホー イー ヘン、本城 葵、福田 菜月、リン テンク、
フウ ウショウ、カツ レイ イ、清水 巴月、チン ショウ、セイゲツ リョウ、
近藤 了禅

【東京藝術大学】
林 信吾、野原 望愛、北野 沙羅、川口 富裕実、松原 瑞穂、渋谷 眞希、
山田 卓人、三品 太智、佐々木 慧、根本内 大木、岡路 貴理、宇野 七穂、
王 夢石

【東京造形大学】
菊野 祥希、古屋 湖都美、QIAN YUAN

(順不同)
※上記は作品制作時点(2022年1月)の所属大学です。

参加者(表具師)

【表粋会】

阿部 崇(神山表具)	鈴木 正紀(西武襖産業)
阿部 行伸(阿部行伸堂)	春原 敏雄(春原表具店)
石井 高弘(石井三太夫表具店)	関口 幸喜(関口表具店)
石川 徳和(石川経師店)	高橋 直樹(装演堂伊藤表具店)
石塚 利郎(石塚表具店)	田村 健太郎(田村表具店)
稲崎 昌仁(経新堂稲崎)	野口 隆行(表具工房 楽)
江原 望(江原小林堂)	野口 麻里子(表具工房 楽)
片倉 桃子(井華堂)	野和田 悦弘(野和田表具店)
金子 治雄(秀和工芸)	平井 敏(平井経師店)
神山 晃一(神山表具)	深谷 哲(柏崎表具インテリア)
小宮山 健夫(小宮山表具内装)	星野 裕孝(星野錦集堂)
白井 弘真(インテリア涼)	武笠 敦史(武笠表具店)
鈴木 正人(鈴木表具店)	吉野 茂義(吉野表具店)

(50音順)

【 参考資料 】

第1回（2018年）実績

展覧会名	江戸表具研究会「表粋会」二十周年特別企画 掛軸と絵画のミライ展 ～美大生・表具師による軸装の可能性～
会期	2018年6月19日(火)～6月24日(日) 開場時間／10:30～19:00、最終日は18:30まで
会場	田中八重洲画廊（東京都中央区八重洲1-5-15）
出品点数	30点
絵画出品者の 所属大学	女子美術大学3名，多摩美術大学7名，東京藝術大学6名， 東京造形大学11名，武蔵野美術大学2名，横浜美術大学1名 (50音順、出品者には学部生・院生・卒業生・助手・教授等も含まれます)
主催・掛軸制作	江戸表具研究会 表粋会
後援	一般社団法人 東京表具経師内装文化協会
協賛	一般財団法人 世界紙文化遺産支援財団 紙守
協力	株式会社 マスミ東京

第2回（2020年）実績

展覧会名	[表粋会特別企画] 掛軸と絵画の未来展 ～美大生と表具師 紙文化を未来へつなぐ～
会期	2020年11月24日(火)～29日(日) 開場時間／10:30～19:00、最終日は18:30まで
会場	田中八重洲画廊（東京都中央区八重洲1-5-15）
出品点数	34点
絵画出品者の 所属大学	女子美術大学3名，多摩美術大学12名，東京藝術大学12名， 東京造形大学5名，武蔵野美術大学2名， (50音順、出品者には学部生・院生・卒業生も含まれます)
主催・掛軸制作	江戸表具研究会 表粋会
後援	一般社団法人 東京表具経師内装文化協会
協賛	一般財団法人 世界紙文化遺産支援財団 紙守
協力	株式会社 マスミ東京